

水土里情報システムを活用した令和2年7月豪雨災害における取組みについて紹介します

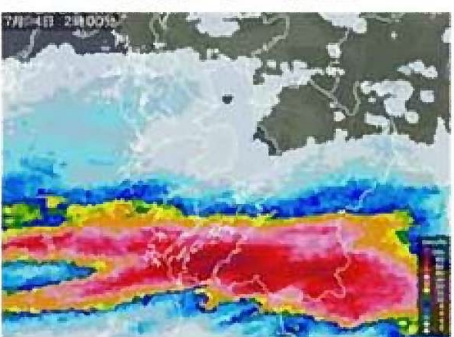
今回紹介する団体：熊本県、水土里ネット熊本

取組概要

内容： 令和2年7月豪雨において、農地、農業用施設が甚大な被害を受けた。これらの被害情報を水土里情報に入力することで、県、市町村の関係機関で被害情報（位置、施設、被害量）の共有化を図り、迅速に災害復旧の対応を行うことができた。

経緯： 熊本県南部の9地点において12時間の降水量が観測史上1位を記録し、河川の大氾濫を引き起こし、浸水、土砂堆積等により、農地、農業用施設が多くの被害を受けた。
被害状況の全容を把握し、迅速に災害復旧を行うためには、県、市町村が連携して対応する必要があり、そのためには、被害情報を関係機関で共有化する必要があった。

●各地で土砂崩れ等が発生



令和2年7月4日午前2時雨雲レーダー



土砂が堆積した農地（球磨村）



土砂が流入した農地（芦北町）



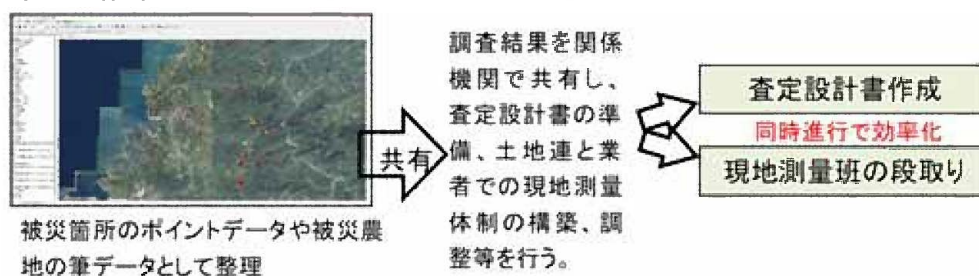
崩落した農道（南小国町）

取組による効果

1. 被害箇所の現地調査結果について、調査日と同日に情報を共有
被害状況調査の結果を、GISを活用して県、関係市町村間で最新の情報を共有することにより、翌日の調査計画に反映（予定地点、班体制）し、進捗状況を管理するなど、効率的に全域の被害状況を確認することができた。



2. 関係機関が情報を共有し、連携して災害復旧に対応



今後の活用予定

豪雨災害は近年、どこでも起こり得る状況であり、今回の対応で、被害全容を把握可能なGISデータの整備及び情報共有の有用性が実証された。今後は、災害発生時のGIS活用手順をシステム化し、関係団体に共有することで、より迅速で効果的な災害対策の実現に取り組む。また、災害発生箇所の情報は、空間検索により筆情報へ落とし込むことで、田んぼダム等の流域治水の実施計画作りへの活用が期待される。

GISシステムのバージョン情報

GISエンジン：ArcGIS Runtime10.3.1

■お問い合わせ先（全体）

熊本県土地改良事業団体連合会 会員支援課水土里情報係 096-348-8802（直通）